

第 158 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

議事概要

日 時：令和 4 年 4 月 14 日（木）13：00～14：00

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

・会議の概要

<報告事項>

- ◇ 県内における新型コロナウイルス感染症の感染者数や広がり状況、医療提供体制等について、それぞれ所管する本部員から報告があった。
- ◇ 経済対策関係団体会議が行われ、概要及び会議内での意見について報告があった。
- ◇ 感染症対策専門家会議にて、委員からの意見について報告があった。

<議題>

- ◇ 沖縄県対処方針の変更について、検討した結果、総括情報部提案を一部修正し、沖縄県対処方針を変更することを決定した。

1 参加者

玉城 知事、照屋 副知事、池田 副知事、島袋 政策調整監、嘉数 知事公室長、宮城 総務部長、儀間 企画部長、金城 環境部長、宮平 子ども生活福祉部長、糸数 保健医療部長、崎原 農林水産部長、松永 商工労働部長、宮城 文化観光スポーツ部長、島袋 土木建築部長、名渡山 会計管理者、半嶺 教育長、我那覇 病院事業局長、松田 企業局長、平良 県警警備第二課次席 宮里 感染対策統括監、高山 政策参与、テレビ会議システム利用：木村 宮古保健所長、比嘉 八重山保健所長

2 報告事項

(1) 沖縄県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

- 総括情報部から最新の新規陽性者及び療養者の状況について報告【資料 1】
 - ✓ 4/13 の新規発生は 1,656 名となっている。

(2) 沖縄県内及び全国の感染状況について【資料 3、3-1～3-10】

- 総括情報部から、警戒レベル判断指標の状況や各種分析資料について報告。
 - ✓ 判断指標の人口 10 万人当たりの新規陽性者数は 612.88 人、病床使用率は 46.5

となっている。

- ✓ 参考指標の、新規 PCR 検査の陽性率は 16.0%、直近 1 週間の新規陽性者数の前週比は 1.19 と徐々に増加している。
- ✓ 療養者数は、入院中 289 名、うち県基準の重症者数 1 名、中等症者数 143 名、宿泊施療養中は 507 名、自宅療養中は 8,512 名であり、療養者数は合計で 10,772 名となっている。
- ✓ 直近 1 週間の人口 10 万人あたりの新規陽性者数は 612.88 で、全国 1 位。東京都が 2 位で、3 位から 5 位が佐賀県、宮崎県、福岡県となっており、九州地方で拡大している状況となっている。
- ✓ 市町村別で見ると、石垣市が 1.60 と感染拡大している様子がうかがえる。
- ✓ 新規感染者に占める 60 歳以上の割合を見ると、1/22 の 18.1%から 3 月半ばに 7.8%まで減ったが、4 月に入りやや増加してきている。
- ✓ 4/1 の週における県外からの移入例は 54 人となっており、前週から 1 名減少している。
- ✓ 沖縄県疫学・統計解析委員会の分析によると、実効再生産数については、沖縄本島 1.14、宮古 1.23、八重山 1.62 となっており、全県的に増加傾向にある。
- ✓ 年齢階級別の増減率を見ると、10 台が 1,508 人と最多であり、10 歳未満 1,424 人、20 代 1,229 人と続いている。
- ✓ 年齢階級別にみる新規陽性者数の推移をみると、10 歳未満は第 6 波を超えて過去最多となっており、10 代も過去最多に並ぶ勢いで、子どもたちの流行となっている。
- ✓ 最も増加しているのは 90 代で、先週 102 人のうち入所施設における感染が 52 人（51%）、デイサービスにおける感染が 9 人（9%）と介護関連感染が 6 割を占めている。
- ✓ 3/26 から 4/4 にかけて県内収集した 48 検体のうち、28 例が感染力の強いとさ

れる「BA2」系統のウイルスとなっており、今後さらに急速に感染者が増加するおそれがある。

- ✓ 50代、60代、70代、80歳以上のどの階級においても、ワクチンの接種回数が増えるほどに入院受療率は低下する傾向にあるが、3回接種している80歳以上では、34.2%が入院を要するなど、必ずしも軽症で推移するとは限らない。
- ✓ 60代、70代、80歳以上のどの階級においても、接種回数が増えるほどに致死率は低下する傾向があり、3回接種者では死亡例が認めていないが、80歳以上の未接種または1回接種者では3.8%（6/159）が死亡している。
- ✓ 今後の見通しと対策としては、春休みに入り子どもたちにおける感染拡大が顕著だったため、交流が活発だったことが考えられる。先週より学校が再開されたこともあり、拡大の勢いは収まっていく可能性がある。
- ✓ 一方で、歓迎会や懇親会、新歓コンパなど、年度初めのイベントにより感染拡大する可能性があるため、多人数での会食を避けるか、参加者全員の検査陰性を確認することをお勧めする。
- ✓ 今週の新規陽性者数は10,000人-13,500人となり、今週末までに入院患者数は300-350人に至り、うち重症患者数は4人前後と見込まれる。

（4）沖縄県人口変動状況について【資料5】

- 総括情報部から、KDDI Location Analyzerによる分析結果を報告。
- ✓ 商業エリア、空港エリアの人流について、3月下旬と比較すると大きく減少している。

（5）ワクチンの接種状況について【資料9】

- 総括情報部より報告。
- ✓ 4/12時点での接種実績として、1回目70.7%、2回目69.9%、3回目34.5%が

接種済みとなっており、3回目の接種は高齢者の77.9%が接種済みとなっている。

- ✓ 県広域接種センターは3か所設置しており、企業・団体枠の設置、接種券なしでの接種、予約なしの当日受付を実施している。
- ✓ 小規模離島の3回目実施状況は、全ての離島で3月中に希望する住民に接種を実施している。
- ✓ 職域接種は現時点では9団体で開始済みとなっている。

(6) 県立病院の状況について

➤ 病院事業局より県立病院の状況について報告

- ✓ 4/14 時点の県立病院の入院患者数は全体で 75 人、沖縄県の入院患者数 289 人の 26.0%を占める。県立病院が現在確保しているコロナ病床の稼働率は 46.6%である。
- ✓ 県立病院の入院者数の内訳としては、北部病院 21 人、中部病院 19 人、南部医療センター17 人、宮古病院 5 人、八重山病院 10 人、精和病院 3 人の計 289 人となっている。また非コロナ病床稼働率は全体的に高くなっている。
- ✓ 北部病院では入院中のコロナ患者 1 名の分娩対応を行った。また、他院で出産した母親がコロナ陽性となり、親子とも入院中である。
- ✓ 中部病院では、3/30 に NICU で発生したクラスターは 4/12 時点で 7 名全員が回復したため、終息したと判断。一般病床の確保に難渋しており、南部医療圏への救急搬送が必要となる状況が起こり得る。
- ✓ 南部医療センターでは、コロナ肺炎で呼吸不全の患者 2 人が ICU に入院。コロナ病床は確保できているが、一般病床が不足しており自転車操業をしている。
- ✓ 宮古病院では、82~89 歳の高齢者で中等症Ⅱが 1 人。職員の感染者は 1 人で、

濃厚接触者は3人。医療フェーズが3Aで16床を確保している。島内では南
静園で7人のクラスターが発生している。

- ✓ 八重山病院では、八重山圏域で毎日30名ほど感染報告がある中で入院患者数
に大きな変化はないが、保健所からの要請によるドライブスルー外来のコロ
ナ患者数は若干増加傾向にある。
- ✓ 精和病院では、職員の休業者は2名で業務に支障はない。入院中の患者2人
の状態が悪化し、他の医療機関に搬送した。デイケア通所中の患者に陽性者
が発生し送迎者に同乗した患者、職員の検査を行ったが、今のところ陽性者
はなくデイケアの運用について支障はでていない。
- ✓ 県立病院職員全体の休業者については、3/8時点では89人、4/13時点では81
人となっており、内訳としては医師が9名、看護師が42名、コメディカルが
12人、事務職員が18人となっている。

(7) 宮古・八重山地域の感染状況について【資料7】

宮古地方本部から宮古地域の感染状況等について報告。

- ✓ 宮古では1週間で300名程度の感染者が発生しており、前週より1.2倍前後と
なっている。その内20歳未満で42%程度、20代から40代で43%となってお
り増加傾向。一方で60代以上は前週比8%程度で減少傾向にある。
- ✓ 20代から40代での患者が増えており、子どもから親世帯へ感染のパターンが
増えていると考えられる。また、感染者の職業は幅広い。
- ✓ 宮古は第7波に入っていると認識している。今回の波が人口10万人あたり200
人以上と定義すると、3/21の週から入っていると考えられる。
- ✓ 施設からの発生は最近一日1件、週に7、8件程度ある。
- ✓ 南静園でのクラスターについては、ワクチン3回接種者も進んでおり終息は早
いと思われる。

- ✓ 今後は3回目の接種を進めていくことが重要。2回接種でも6か月過ぎていると効果はほとんどみられない。

➤ 八重山地方本部から八重山地域の感染状況について報告。

- ✓ 4/6の週の感染者は334名程度となっており、前週比1.6倍程度と上がってきている。4/4から連日50名程度陽性者の発生が続いており、春休み、新年度による人の動きが活発になったことが理由ではないか。
- ✓ 年代別では、10歳未満、40代で感染者が増えているが60歳以上については減ってきている。
- ✓ 10歳未満では家庭内を通じての感染が増えている。
- ✓ ここ一週間の新規陽性者のうち、50%以上はワクチン未接種者となっている。
- ✓ 飲食店や建設業の陽性者も増えている。

(8) 空港PCR検査プロジェクト・TACO・RICCAの運用状況等について【資料10】

➤ 文化観光スポーツ部から、空港PCR検査プロジェクト・TACO・RICCAの状況について報告。

- ✓ 空港PCR検査プロジェクトについて、4/4の週の受検者は3,001名で、その内52名が陽性であった。
- ✓ 那覇空港抗原検査について、4/4の週の受検者は381名で、その内3名が陽性であった。
- ✓ TACOについて、4/4の週の電話対応件数は11件で、うち健康相談・問診実施数は5件となっている。
- ✓ RICCAについて、4/8時点の登録者数は147,535人となっている。(前週より+402)

(9) 第6回新型コロナウイルス感染症の影響に係る経済対策関係団体会議（幹事会）

概要について。

- 商工労働部より上記会議について報告があり、意見としては大きく分けて5つあった。
 - ✓ ワクチンの接種率の向上に向けた取り組みを進めていくこと
 - ✓ まん延防止等重点措置の適用については、慎重に判断していただきたい。
 - ✓ 新たなGO TOトラベルの制度設計の検討
 - ✓ 観光の自粛につながるようなメッセージは避けていただきたいということ
 - ✓ PCR検査の無料実施の継続の要望

(10) 感染症対策専門家会議委員からの意見の概要について

- 総括情報部より、上記会議について説明があり、対処方針の取組強化について意見があった。
 - ✓ 「普段接しない人」について、一緒に住んでいない家族や親戚、孫（子ども→高齢者の感染事例もよくみられる）など具体例を入れたらどうか。
 - ✓ 全職員が容易に実施でき、参加希望の施設を増やすため、各種検査を利用可能な「定期検査」としてはどうか。
 - ✓ 軽度の咽頭痛や鼻水のみ症例もみられるため、体温測定のほか、体調チェックも含めた方がよい。
 - ✓ 若年者の3回目ワクチン接種率はかなり低く、接種の動機づけすることも難しいが、高齢者に拵げないためにも繰り返し伝えていくしかない。
 - ✓ 検査待ちの間の登校禁止、部活動の中止などは有効な対策となりうると思うが、その場合は事前の議論が必要ではないか。
 - ✓ 沖縄県内でも接種率の低い地域（中部地区など）に関して、具体的な数値設定を行ってはどうか。

- ✓ 来週も拡大傾向を認める場合、警戒レベルを3に引き上げるとともに重点措置を要請した方がよいと考える。
- ✓ 来る大型連休でもこれまでにない数になると予想される。今回の文書では「推奨」レベルから離れていないが、具体的に渡航前後の検査、ワクチン接種の確認など、より実効性のある水際対策が求められる。

(11) 各部局の取り組み状況について【資料 13】

- 総括情報部より、各部局の取組の中から数点ピックアップして説明。
 - ✓ 文化観光スポーツ部の取組である空港PCR検査の実施件数を、那覇空港 500 件/日から 700 件/日、宮古空港 150 件/日から 300 件/日、下地島空港 100 件/日から 200 件/日、新石垣空港 150 件/日から 300 件/日に拡充する。
 - ✓ 子ども生活福祉部では、高齢者等福祉施設の利用者への感染対策として、「面会者の体調やワクチン接種歴、検査結果等を考慮するとともに、オンラインによる面会の実施も含めて対応を検討する」こととしている。
 - ✓ 教育庁では、新たな対処方針として、まん延防止等重点措置レベルである「学校行事（歓迎行事、遠足、宿泊学習等）は、地域や学校の状況を踏まえて延期、縮小、又は中止すること。」を追加する。
 - ✓ 学校が再開された後、学校内で感染症対策を確実にいき、若年層の感染拡大防止を図るため、感染症対策専門家会議及び沖縄県医師会の協力のもと、感染予防のために最も重要な事項をわかりやすくまとめたパンフレット「感染予防4つの基本」を作成し、市町村教育委員会、幼稚園、小中学校、高等学校、教育事務所に発出した。

(12) 報告についての意見について

- ✓ クラスターの発生状況について、現在は確定した段階で資料と上がってくるが

- タイムラグがあるため、疑い例でもよいので速報値として報告があるとよい。
- ✓ クラスターの内訳をみると施設のスタッフの陽性者が多い。スタッフのワクチン接種回数などをデータ上で掲載してもらい、接種を促す取り組みが必要。
 - ✓ 学校現場での感染者が発生した場合の対応として追加で、同居家族以外の感染者と接触した場合で無症状、感染のリスクが低いケースでは PCR 検査を受けながら登校してもよいとしている。
 - ✓ 小児の流行について、学校が新学期になっても流行が収まる気配がない。特に、10 歳未満では前週比 1.4 倍となっている。減少しなかった際のシナリオを考慮しておく必要はある。
 - ✓ 季節性インフルエンザの流行時が 13,000 人/週であることから仮定すると、現在の流行の 3～4 倍のポテンシャルはある。また、第 6 波の 20 代並の流行を仮定すると、2～3 倍に増加する可能性はある。
 - ✓ 場合によっては課外活動の停止を求める、韓国並みの感染拡大が起きた場合学校の一斉閉鎖、休校という選択肢もあるのか議論が必要。

3 議題 沖縄県対処方針の変更案について

- 総括情報部より、沖縄県対処方針の変更案について説明があった。
 - ✓ 要請期間は 4 月 15 日（金）から 4 月 28 日（木）としている。また、沖縄県の現況に沿う形で文言の変更を行っている。
 - ✓ 感染の再拡大を防ぐという考え方から感染拡大を抑制すると変更した。
 - ✓ 沖縄県の現況は第 7 波に入ったものと考えられ、20 代が突出して多かった第 6 波と異なり 10 歳未満、10 代の陽性者が多く、また 70 歳以上の高齢者の入院が増えていることを記載している。
 - ✓ そのため、これまでの取り組みに加え、高齢者に感染を拡げないこと、子どもを感染から守ること、学校での対応及び福祉施設での対応について文言の

修正および追記を加えている。

- ✓ また、歓迎会や懇親会の多い時期でもあるため、会食について追記している。

- 議題について、各委員から意見があった
 - ✓ 対処方針を市町村や業界に周知していくために、オンライン会議を活用して前回の対処方針との変更点や感染状況を説明していくことが必要と思われる。
 - ✓ 文言の並び替え、追記についての意見。

- 総括
 - ✓ 委員から意見のあった項目を追記、修正し、対処方針の変更を決定した。

閉 会